

3. 学校の配置及び学科再構成等

(1) 県全体の学校配置

【現行再編計画】

県立高等学校 142 校を 127 校程度（中等教育学校 2 校程度を含む。）とする。

【学校配置及び学科再構成の方針】

ア 中学校卒業生数の減少を受け、県立高等学校の配置を全県的に見直し、複数校の統合により、現在の県立高等学校 142 校を平成 24 年春までに 127 校程度（中等教育学校 2 校程度を含む。）とする。

イ 1 校当たりの適正規模を、1 学級 40 人換算で原則 1 学年 4～8 学級とし、1 学年の学級数が 3 学級以下の学校は統合を前提とするが、学校・地域の状況等により統合しない場合もある。

ウ より一層の教育効果が期待できるなどの理由から、単独で単位制や総合学科等への転換を行うほか、複数校の統合による学科再構成等を行う。

エ 生徒の多様な学習ニーズに対応し、複数の学科や様々なコースを設置している学校では、学科の枠を越えた教科・科目選択を可能とするなど、教育課程の工夫・改善を行う。

オ 千葉ニュータウン地区については、既設校を移転することを含めて検討する。

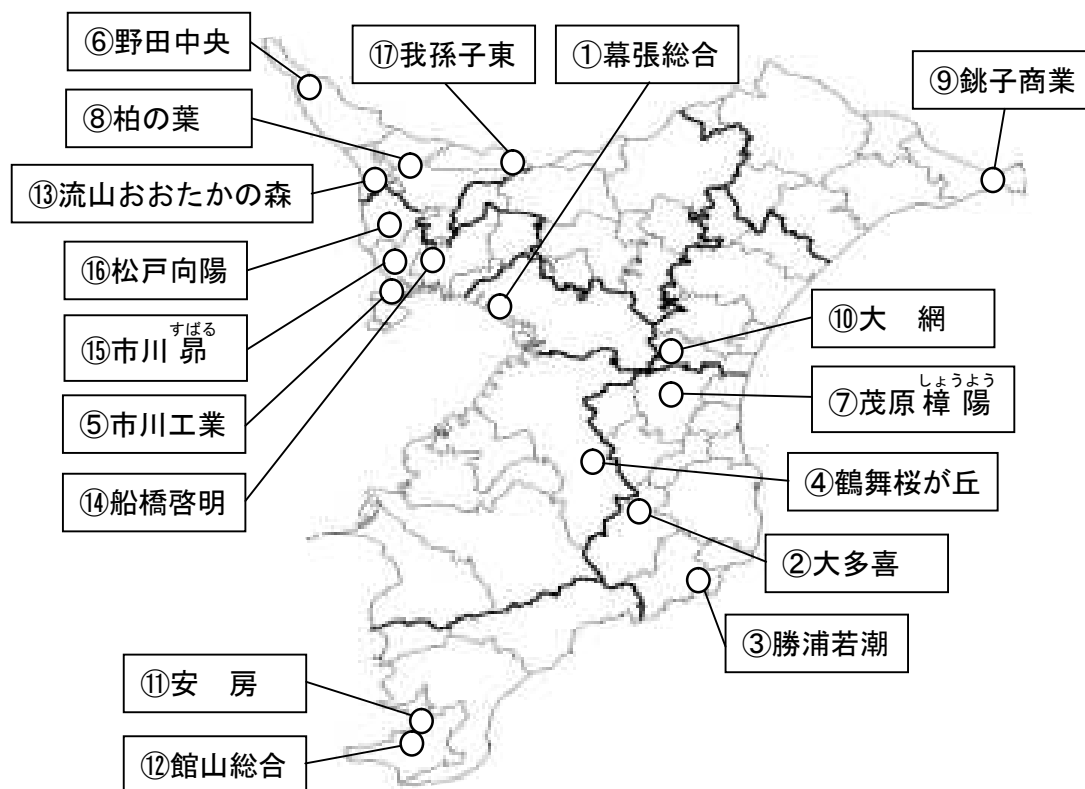
【実施状況】 17 組 34 校の統合実施（県立高校は 142 校から 125 校）

	年度	統 合 校				
1 期	16	幕張総合 若葉看護	→ ① 幕張総合	大多喜 大多喜女子	→ ② 大多喜	
	17	勝浦 御宿	→ ③ 勝浦若潮	鶴舞商業 市原園芸	→ ④ 鶴舞桜が丘	
	18	市川工業 葛南工業(定) 茂原農業 茂原工業	→ ⑤ 市川工業 → ⑦ 茂原樟陽	野田北 野田	→ ⑥ 野田中央	
2 期	19	柏西 柏北	→ ⑧ 柏の葉			
	20	銚子商業 銚子水産 館山 安房水産	→ ⑨ 銚子商業 → ⑫ 館山総合	山武農業 白里 流山中央 流山東	→ ⑩ 大網 → ⑬ 流山おおたかの森	安房 安房南
3 期	23	船橋西 船橋旭 松戸秋山 松戸矢切	→ ⑭ 船橋啓明 → ⑯ 松戸向陽	市川西 市川北 布佐 湖北	→ ⑮ 市川昴 → ⑰ 我孫子東	

【前期分に係る評価】

- 統合により、学校規模や配置の適正化が図られた結果、生徒が多くの友人・教師との触れ合いや、お互いの切磋琢磨により、生きる力を育む環境が整いつつある。
- 統合を契機に、地域のニーズに応える取組や統合の良さを活かす取組など積極的な学校改革が進められている。また、部活動の数及び加入率ともに充実し、様々な学校行事も工夫され、学校が活性化している。
- 異なる専門学科を有する高校の統合では、学科を越えて選択できる自由選択科目が設定されたり、就職の求人指定枠が大幅に増えたりするなど、両校の良さを生かした進路指導が行われている。
- 幕張総合高校の看護科専攻科については、5年間で看護師の資格取得が可能となっており、平成18～20年度末で84人の専攻科を修了した生徒全員が看護師資格を取得した。公立高校が看護師養成に果たす役割については、国の医療改革の動向等を踏まえ今後あらためて検討する必要がある。
- 分散している校舎（実習施設等）を併用している学校では、生徒・教員の移動に伴う負担や施設管理面での課題がある。
- 専門学科では、「統合以前の特色が希薄になった。」「校名変更によって学校の特徴を捉えにくくなった。」などの指摘もあり、統合による良さや特色・取組などを、中学生・保護者及び中学校等へ分かりやすく周知する必要がある。

《統合校配置図》17組34校の統合により、新しい学校が生まれました。



(2) 定時制高校の配置

【現行再編計画】

- a) 単位制の三部制定時制高校を 3 校程度設置する。なお、設置学科は普通科または総合学科とする。
- b) 現在、独立校 1 校と夜間定時制併置校が 16 校あるが、統合及び再配置により夜間定時制併置校 12 校程度とする。
- c) 原則として単位制とし、通信制協力校とする。

【実施状況】 三部制定時制高校 2 校設置

	再編内容
第 1 期	[統合]葛南工業(定・独立校)＋市川工業 → 市川工業 (H18) [設置]松戸南：全日制 → 全日制・三部制定時制 併置(H18) [募集停止]野田：夜間定時制 (H18 募集停止)
第 2 期	[設置]生浜：全日制 → 全日制・三部制定時制 併置(H19) [募集停止]千葉：夜間定時制 (H19 募集停止、H20 在籍生徒は生浜高校に転学)

【前期分に係る評価】 三部制定時制高校の設置について

- 生徒の多様なライフスタイルや興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応する新たなタイプの学校として、学校選択の幅を広げ良好な志願状況を維持している。
- 習熟度別学習や少人数指導などのきめ細かな指導や生徒同士の積極的なコミュニケーションにより、中学校時代に悩みを抱えていた生徒も自信を深めている。学び直しができる学校として、他の地域への新たな設置を求める声がある。
- 他部履修により、自分の学習ペースにあわせ 3 年間で学習を修了し卒業する生徒も多く、多様な生活パターンや学習ニーズを持つ生徒に対応している。
- 他の夜間定時制との学校間連携が実施され、生徒の興味・関心、進路希望等に応じた科目履修、単位修得が可能となっている。また、通信制との連携が進められ定通併修によって、生徒の学習ニーズに柔軟に応えられる学校となっている。
- 悩みや問題を抱える生徒及び保護者の相談等、三部制定時制高校独自の課題に対応するため、スクールカウンセラーや専門性の高い教員の配置及び職員研修の充実などが求められる。
- 日課は、全日制(2クラス6時間)と併せて三部制の午前部・午後部・夜間部(各2クラス4時間、通算12時間)の教育活動を同時展開している。また、始業前や放課後には他部履修や部活動、生徒及び保護者の相談等も行われている。教員の勤務形態は、前勤・後勤の2グループに別れている。このため、グラウンドや体育館等の施設使用割当て、職員会議や清掃の時間確保など、学校運営上の課題がある。

(3) 通信制高校の配置

【現行再編計画】

通信制独立校を第1学区に1校設置する。

【実施状況】通信制独立校1校設置

	再編内容
第1期	[独立校]千葉大宮：全日制→通信制（H18 通信制募集開始、H19 通信制独立校） [募集停止]千葉東：通信制（H18 在籍生徒は千葉大宮高校に転学）

【前期分に係る評価】通信制独立校の設置について

- H19年度から独立校となり、全ての施設を通信制課程で使用することが可能になったことから、スクーリングの回数及び内容の充実が図られている。
- 社会の学習ニーズに対応し、生徒の受入れ機会が拡大している。
- スクールカウンセラーや常勤の養護教諭の配置により生徒の心身の健康管理や進路指導等の充実が図られている。また、学習チューター制度等の活用により学習面での個別指導もよりきめ細かい対応が可能となっている。
- 柔軟でかつ個に応じた学習スタイルを選択できる通信制独立校として、学習歴やライフスタイルなどが多様化する生徒の増加に適確に対応し、社会のニーズに応えている。なお、他の県立高校からの安易な進路変更等に繋がることのないよう配慮が求められる。
- 再編計画に記されている「定時制高校を通信制協力校として、スクーリングや定期試験への利便性を図ることや、添削指導・相談・連絡等でインターネットの活用を図ること」については、現在、調査・研究を進めている。

〔県立高等学校再編計画評価委員会〕



※ 評価委員会から、評価の基本的な考え方ははじめ、進め方、手法等について指導や助言を受け、評価の客観性を確保しながら、評価作業を進めた。

委員長：上智大学教授 武内清委員、副委員長：神田外語大学特任教授 八木雅之委員
(所属は、平成21年当時)